

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	
教養科目	初年次教育	スタディスキルズゼミⅠ	大学では、高校までの受動的学習に加えて、自ら考え発表する、他の受講生と議論する、自ら問題を発見し、その解決を目指すなどの能動的な学びと学習スキルが必要となる。ノート作りひとつ取っても、高校までとはまったく異なる考え方が必要である。この講義は、1年生のうちにこういった能動的な学習のために必要な基礎的なスキル・能力を身につけ、自主的・主体的な学びを実現していく準備をする。
		スタディスキルズゼミⅡ	「スタディスキルズⅠ」で学んだ、能動的な学びを深め、学習スキルをさらに高める科目として位置付ける。この講義では、能動的な学習のために必要な基礎的なスキル・能力に加え、表現力や感性に関心を向け、コミュニケーション力を磨くことを目的とする。
		コンピュータ基礎演習Ⅰ	この演習では、コンピュータシステムの構成と機能を解説し、オペレーティングシステムと情報通信ネットワークについて、Windowsを例として、電子メール、web上での検索などwebシステムの演習を行う。コンピュータ及びネットワークのリテラシー技術を習得することを目標とする。
		コンピュータ基礎演習Ⅱ	「コンピュータ基礎演習Ⅰ」に引き続き、コンピュータの基礎的な操作方法の習得を目指す。本演習では、コンピュータ上でいくつかのソフトウェアを利用し、基本的な利用環境とその操作方法を習得する。具体的には、データの作成→データの分析→レポートの作成→プレゼンテーションの一連の流れを題材にした演習を実施する。
	一般教養	金沢まち学	「金沢」という街の持つ力を、リレー形式の授業によって、人文学の複数の視点から総合的に分析する。履修者は、講義に関連する「金沢」の様々な場所を実際に訪れ、自らの五感で、講義内容を確認するとともに、「金沢」の新たな魅力を発掘する。「地域連携プロジェクト」、「地域研究実践」につなげるための入門授業である。
		地域連携プロジェクトⅠ	地域と大学の学びをつなぐ授業である。地域の人たちと対話し、アイデアを出し合い、役割分担をし、計画し、それを実現するなどのような、地域の人たちと協働するための基本的なスキルやコミュニケーション能力を身につける。地域社会の組織やそこでの文化活動の在り方、公的機関の役割なども学ぶ。「地域研究実践」を学ぶための基礎となる。
		地域連携プロジェクトⅡ	地域のニーズを把握し、自らの学んでいることを、そのニーズに応えるものとして発信できるように、それぞれのテーマに従って調査・考察を行い、まとめ、ディスカッションを行う。

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
教養科目 キャリア教育	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインとは、自身の人生の中でも特に「職業人生」について、自らが主体となって構想し、実現させていくものである。本講義では、大学と企業が連携した「産学協同PBL型講座」において、グループワークを実施する。入学後の早期に社会のリアルな課題に触れ、「正解のない課題」への取り組みと振り返りを通じて、理論や知識の不足、できない自分を知ることから、学びへの意欲を喚起し、キャリアデザインに最も必要な「主体性」を養成する。
	キャリアデザインⅡ	「キャリアデザインⅠ」で培った「主体的学びの姿勢」を基礎とし、社会において自律的・主体的に生きていく力、また、他者のそうした生き方をも支援できる力を伸ばす。具体的には、身近な問題や事例を素材に、具体的な問題解決に向けてのグループワークを実施する。グループ内相互のコミュニケーション、他グループへのプレゼンテーションを通じて、就業に必要な基礎力を養う。
	私のキャリア プランニングⅠ	社会人として必要な一般教養を身に付け、また、就職に必要な各種一般常識や一般教養試験に対応できる、人文・社会・自然科学分野の基礎力を養成する。できるだけ多岐にわたる分野とトピックスを取り上げ、具体的な学習活動、就職試験問題への対応と対策にも言及する。自らの将来設計に向かって積極的に対処する能力・態度・努力・工夫の基盤が形成されることを目標とする。
	私のキャリア プランニングⅡ	これまでの学習活動の積み重ねを基盤に、社会人として必要な各種一般常識や一般教養試験に対応できる、人文・社会・自然科学分野の応用力を養成する。学習全般を通じて、これら一般常識を身に付けるとともに、自ら積極的に行う自己分析、職域・職種研究等が、個々の個性的、論理的表現に結実するよう、論述力・自己表現力が涵養されることを目標とする。
外国語科目 第一外国語	基礎英語Ⅰ	四技能(読む・聴く・書く・話す)すべての土台となる「英文法」を、基礎から体系的に理解することを目的とする。学生は、実際に英語の文章を読みながら、正確に読み解くためにはどのような英語の規則を知っておく必要があるのかを学ぶ。この授業を通じて、今後の自律的な英語学習に必要な基礎力を身に付け、辞書と時間さえあれば、一般的な英語の文章を読み解くことができる英語力を習得することが目標となる。
	基礎英語Ⅱ	「基礎英語Ⅰ」を受けて、「英文法」を体系的にさらに深く理解することを目的とする。学生は、実際に英語の文章を読みながら、正確に読み解くためにはどのような英語の規則を知っておく必要があるのかを学ぶ。この授業を通じて、今後の自律的な英語学習に必要な基礎力を身に付け、辞書と時間さえあれば、一般的な英語の文章を読み解くことができる英語力を習得することが目標となる。

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
外国語科目	第一外国語	English Communication I	<p>While learning how to survive in a variety of conversational situations, students will improve their English by practicing the four language skills: reading, writing, speaking and listening. However, emphasis will be placed on enabling students to start and sustain simple conversations. Students will have opportunities to practice model dialogues and role plays as well as freer conversations in both pair and group situations. To prepare for these conversations, students will receive individual instruction on proper pronunciation, stress, intonation, and expression. After, students will receive individual feedback on their performance. By the end of the course, students will be expected to be able to communicate fluently and confidently in the situations introduced in the course.</p> <p>さまざまな状況に対応できる英語力を身につける。ペアワーク、ロールプレイなどを通し、英語の四技能をバランスよく鍛え、簡単な英会話ができるようになることを目的とする。</p>
		English Communication II	<p>Students will build upon what they learned in English Communication I by learning to survive in different, more challenging situations. Students will improve their English by practicing the four language skills: reading, writing, speaking and listening. However, emphasis will be placed on enabling students to start and sustain simple conversations. Students will have opportunities to practice model dialogues and role plays as well as freer conversations in both pair and group situations. To prepare for these conversations, students will receive individual instruction on proper pronunciation, stress, intonation, and expression. After, students will receive individual feedback on their performance. By the end of the course, students will be expected to be able to communicate fluently and confidently in the situations introduced in the course.</p> <p>「English Communication I」よりもさらに複雑な状況に対応できる英語力を身につける。ペアワーク、ロールプレイなどを通し、英語の四技能をバランスよく鍛え、より高度な英会話ができるようになることを目的とする。</p>
外国語科目	第一外国語	英語プレゼンテーション初級 I	<p>この授業は、英語プレゼンテーションの方法、具体的には、資料収集、原稿作成、聴衆の前での発表、質疑応答などの方法を、学生が授業内で能動的に実践しながら学ぶことによって、「読む・聴く・書く・話す」の四技能を総合的に高めることを目的とする。最終的には、基本的な英語表現を使って、簡単なプレゼンテーションができるようになることが求められる。</p>
		英語プレゼンテーション初級 II	<p>「英語プレゼンテーション初級 I」を受けて、英語プレゼンテーションの方法をさらに学び、「読む・聴く・書く・話す」の四技能を総合的に高めることを目的とする。最終的には、基本的な英語表現を使って、ある程度まとまった分量のプレゼンテーションができるようになることが求められる。</p>
専門基礎科目	専門基礎必修科目	心理学専攻 心理学統計法 I	<p>心理学では、実験や調査から得たデータを元に検証をおこなう実証研究によって、心の働きを理解し、法則化しようとする。したがって、文献を読んだり、自分の研究報告をまとめたりするためには、データを整理し、分析する技法を身につけていることが必要になる。心理学統計法 I では、記述統計を学んで、一つ一つの変数の特徴を記述したり、2つの変数の関係を記述する方法を身につける。</p>

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
専門基礎科目	専門基礎必修科目	心理学統計法Ⅱ	心理学統計法Ⅱでは、「心理学統計法Ⅰ」を受けて、推測統計学を学び、統計的検定法など、自分が研究計画を立て、報告をまとめるまでに必要な統計手法を身につける。
	専門基礎選択科目	古典文学講読Ⅰ	幼い子どもが「一寸法師」や「浦島太郎」を読み聞かせられてすぐに了解できるのは、おそらくはこれらの《昔話》を収蔵する『御伽草子』に、幼子にも了解できる《物語の祖型》が、大変シンプルな形で露呈されているためと考えられる。本講義では、その《物語の祖型》がどのようなものであるかを考えることで、ふだんは無意識に行っている《物語を読む》という行為について再検討していく。
専門基礎科目	専門基礎選択科目	古典文学講読Ⅱ	『御伽草子』は「室町物語」とも言われ、それ以前のさまざまな文学伝統、すなわち古代・平安・鎌倉の伝統的な文学ジャンル（王朝物語・軍記物・説話・縁起物）を受け継ぎ、次代に引き渡すという文学史上の結節点でもある。本講義では、それら源泉となった歌や物語にも触れていく。
		近・現代文学講読	近・現代文学に関するテーマや代表的な作家、作品をとり上げ、作品の分析や読解の方法を学ぶ。基本的な知識や鑑賞能力を習得すると共に、作品の新たな読みの可能性を探る。
	心理学専攻	学習心理学	心理学では、学習を「訓練や経験によって生じる比較的永続的な行動の変容」と定義する。これは「学校での勉強」だけではなく、運動技能の習得、日常の経験からさまざまなことを感じとり、それに対処することなども含む。つまり、自分が置かれた環境や社会に適応していく過程が学習であると言える。この講義では、学習の基本的な仕組みについて理解し、学習を説明する諸理論について知見を深める。
		発達心理学	発達心理学とは、時間の経過に従って生じる人間の行動の変化や、その変化の基礎にある法則を記述し、このような変化をもたらす要因を明らかにすることを目的とする学問領域である。この授業では、発達心理学の基礎的な知見や理論を学び、発達心理学の研究法を身につけるとともに、人間の健やかな発達には何が必要なのかという問いについて考えることを目的とする。
		臨床心理学	現代は精神障害を含む心理的問題、発達の問題など種々の問題行動で悩む人が多い。そのような人に心理的援助を行い、問題の解決や改善を目指すのが臨床心理学である。臨床心理学の理論や研究法、援助法に関する知識を習得し、臨床心理学的観点から心の問題を理解できるようになることを目指す。
		心理学実習（調査法）	心理学研究の基本は、研究目的に沿ってデータを集めて分析し、心のさまざまな側面について明らかにする実証研究にある。実証の手法には実験や調査がある。この講義では、心理学調査の基本的な手法を習得し、質問紙を用いた測定をおこなえるようになることを目指すと同時に、データ分析やグラフ作成など調査論文執筆の基本を習得することを旨とする。

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容
専門基礎科目	専門基礎選択科目	心理学専攻	心理学実習 (実験法)	心理学研究の基本は、心のさまざまな側面についてデータを分析し、明らかにする実証研究にある。実証の手法には実験や調査がある。この講義では、心理学実験の基本的手法を習得し、精確な実験測定をおこなえるようになることを目指すと同時に、データ分析やグラフ作成など実験論文執筆の基本を習得することを目指す。
専門科目		日本文学専攻	古典文学演習	昔、仏教は海の向こうからやって来た客神（まろうどがみ）を祀る異国の宗教であった。それが日本に根つき変容し広がっていくためには、いくたりものフィクサーと、それを消化していく風土の力が必要だったはずである。『靈異記』を読んでいると、見知らぬ異郷の文化を受け止め、己がものとしていく古代日本人の葛藤や畏れ、賛嘆、そして底知れぬ包容力が透けて見える。本演習では、そのような日本的な仏教受容の原型、ひいては日本人の外来文化受容の原点を探っていく。
			日本語学特殊講義	日本語を彩るさまざまな表現技法や論法について知り、ことばの芸術をより深く味わうための力を身につける。表現技法としては、比喩・擬態法・擬人法・倒置法・反復法・反語・対句・押韻・省略法など、論法としては推論法・帰納法・設問法などを扱う。同時にそれらの技法や論法を使って、自分の考えや印象をより効果的に、魅力的に伝える表現も追求していく。
			日本語史概説Ⅰ	現代日本語は、方言も含めて、長い日本語の歴史の中で成立したものである。従って、日本語の歴史を学ぶことは、過去を知るためだけでなく、現代日本語についての理解を深めるためにも役立つ。また、日本語の歴史の変遷の諸事実は、言語変化の要因について考える上でも多くのことを教えてくれる。本講義では、国語教育、日本語教育の内容も意識しながら、時代別の日本語史のうち、総説、音韻史、文字史について、日本語諸方言の事象とも関連づけながら、時代の縦の流れとして概説していく。
			日本語史概説Ⅱ	本講義では前期の「日本語史概説Ⅰ」に続ける形で、国語教育、日本語教育の内容も意識しながら、語彙史、文法史、位相語史などについて、日本語諸方言の事象とも関連づけながら概説していく。
			創作入門	小説、随筆を中心とした文芸的な文章の書き方の基本を学ぶ。具体例となる文学作品を分析しながら、履修者の書いた作品と比較し、創作の基本を理解する。合評会形式を取り入れ、書く力の向上と同時に、履修者の読む力、批評力の向上も図る。
			創作実践	小説、随筆を中心とした文芸的な文章の本格的な書き方を学ぶ。現在の日本文学の最前線に触れ、適宜、現役作家や編集者の批評や指導も取り入れながら、学外に発表できる形で作品をまとめる。

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	
専 門 科 目	英 米 文 学 専 攻	英語学講読Ⅰ	英語でのコミュニケーションを自信をもって行うことができるように、基本単語を文や会話のなかで使いこなせる力を徹底的に身につける。そのような力は英語にたくさん触れるだけでは身につかないことがこれまでの研究で明らかになっているため、基本単語が用いられるコンテキストをおさえながら、単語の中核的意味と英語の思考回路を体系的に学び、コミュニケーションに本当に役立つ英語の語彙力の基盤を確立する。
		英語学講読Ⅱ	英語学・言語学に関する基礎的な文献の精読を通して、英語学・言語学の基礎的概念ならびに考え方を学ぶとともに、英語で書かれた学術論文を正確に読み解く力を身につけることを目標とする。随時、重要な話題・概念を取り上げて議論することによって理解を深めるとともに、議論する力を身につける。
		英語学演習Ⅰ	この授業は、英語学を通して学生が自ら研究課題を発見し、その課題に対して能動的に考えることによって、論理的思考力・問題解決力を養うことを目標とする。具体的には、英語学に関する文献を読み、その研究の妥当性について議論し、どのようにしたら先行研究の問題を解決できるのかを考えることによって、英語学の基本的考え方、ならびに方法論を学ぶ。
		英語学演習Ⅱ	「英語学演習Ⅰ」で学んだ内容を活かして、より専門的な英語学の文献を読み、批判・検討することによって、英語学の分野で独自の研究ができるようになるための基礎を身につけることを目的とする。加えて、英語学に関する自らの主張を論理的に構成し、文章化する訓練を行う。
		第二言語習得演習Ⅰ	第二言語習得研究分野の研究を取り上げ、批判的に検討することにより、実際に研究を行うことができる能力を向上させることを目的とする。また、卒業論文作成に向けた執筆指導も目的とし、基本的な研究手法や論文執筆のルールに関する指導を行う。
		言語学演習Ⅰ	言語とは形と意味という二面性を有した体系であるが、本授業では、言語表現の意味的側面の諸問題を考察し、人間にとって言葉とはどういうものを学ぶ。そのなかで、個別言語及び人間言語に普遍的に観察できる意味的特徴を明らかにし、人間が意味を理解することについて考えていく。また、意味の現象の仕組みが人間の認識の仕方や身体経験に裏打ちされていることを説明していく。
		英語文法論Ⅰ	この授業では、英語の文がどのような原理・規則のもとに成り立っているのかを科学的に考える。学生はこの授業を通じて、英語の基本的な統語的特徴を理解し、自らデータを探して分析する力を身につけることを目標とする。また、随時日本語や他の個別言語の構造と比較しながら、英語特有の性質とは何か、言語の普遍的性質とは何か、といった問題についても考える。

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	
専 門 科 目	英 米 文 学 専 攻	英語文法論Ⅱ	<p>「英語文法論Ⅰ」と基本的な目標は変わらないが、この授業では、より複雑な英語の文（具体的には、埋め込み文や疑問文など）を取り上げ、それらがどのように成り立っているのかを考える。英語という個別言語の文法について考えることはもちろんであるが、随時日本語を含むその他の個別言語の文法と比較することによって、言語の普遍性・個別性について検討する。</p>
		English Discussion I	<p>Engaging with a variety of topics, students will improve their English by practicing the four language skills: reading, writing, speaking and listening. However, emphasis will be placed on enabling students to engage in discussion with others. Students will have opportunities to discuss a variety of topics. To prepare for these discussions, students will receive group instruction on the content of the discussion topics, on the issues related to that topic, and on the relevant questions to be asked and answered. Students will receive individual instruction on proper pronunciation, stress, intonation, and expression. By the end of the course, students will be expected to be able to sustain a discussion in English on the topics covered in this course.</p> <p>この授業では、英語の四技能（読む・書く・話す・聴く）を総合的に発展させる。特に、英語で人と議論をする力の養成に焦点を置く。様々な話題について議論をする機会を用意し、その準備段階で、話題の展開や質疑応答の方法についてグループごとに指導する。最終的に、本授業で扱った話題に関して議論ができるようになることを目的とする。</p>
		English Discussion II	<p>Students will build upon what they learned in English Discussion I by studying different, more challenging topics. Students will continue to improve their English by practicing the four language skills: reading, writing, speaking and listening. Emphasis will continue to be placed on enabling students to engage in discussion with others. Students will have opportunities to discuss a variety of topics. To prepare for these discussions, students will receive group instruction on the content of the discussion topics, on the issues related to that topic, and on the relevant questions to be asked and answered. Students will receive individual instruction on proper pronunciation, stress, intonation, and expression. After, students will receive individual feedback on their performances. By the end of the course, students will be expected to be able to sustain a discussion in English on the topics covered in this course.</p> <p>この授業は、「English Discussion I」で学んだ内容を発展させるものである。引き続き、英語で人と議論をする力の養成に焦点を置く。様々な話題について議論をする機会を用意し、その準備段階で、話題の展開や質疑応答の方法についてグループごとに指導する。また学生は、発音・ストレス・イントネーション・表現等に関して個別に指導を受ける。最終的に、より専門的な話題に関して議論ができるようになることを目的とする。</p>
		英米文学講読Ⅰ	<p>比較的平易な英語で書かれた文学作品、または、原文を平易な英語で書き直したりトルド版の作品を講読する。第一の目的は、基本的な語彙や文法の力を習得すること、第二は、作品そのものを楽しむこと、第三は、作品の背景となっている英米の社会や文化、歴史などについての認識を深めることである。このようなプロセスを通じて、英語の総合的な力を養うと同時に、人間や人間の心理に対する理解を深める。</p>

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 科 目	英米文学講読Ⅱ	「英米文学講読Ⅰ」で用いられたテキストよりやや難度が高い文学作品を講読する。比較的単純な文章を文法的に正しく理解できるだけでなく、文学作品特有の言い回しや文体に慣れ、作品として鑑賞する力を養成する。作品についての英語での質疑応答、及び要約やコメントの作成などを通して、英語で話す力や書く力の向上も図る。同時に、英米の社会や文化、歴史などについての知識を増やし、人間心理についての理解を深めることを目的とする。
	原典講読Ⅰ	現代のイギリスの小説家のなかから、特にイギリス的であると感じさせる作家を選んで、その短編集を読んでいく。実はイギリスも、アメリカに劣らず移民大国であるが、様々な国の文化と人を取り込みつつ、イギリス独自のものにしていくのがイギリスの大きな特徴であり、移民の文学も伝統的なイギリス固有の文学と同様イギリス的であることに興味がひかれるだろう。
	英米文学演習Ⅰ	英米の文学作品または英米文学に関する評論等を題材とし、英米文学について広くかつ深く研究する。作品鑑賞の方法を学び、個々の作品を鑑賞したり、作家や時代思潮についての知識を得る。学生は辞書が手放せない難度の英文を読み、理解・考察したことを発表したり、決められたテーマについて議論したりすることが求められる。そのような活動を通じて、総合的な英語力を高め、同時に文学の魅力の堪能できることを期待したい。
	英米文学演習Ⅱ	一年を通して読むことが出来る本授業では、古典的長編小説を読みたい。イギリス小説の古典でありながら、現代の読み手の心をも捉えて出版され続けている作品には、時代を超え、民族の違いを超える文学性があり、それに原書で触れることが大切である。語彙等の問題からも18世紀以降、20世紀の最後あたりまでに位置する作家の作品を取り上げたい。
	英米文化論Ⅰ	The purpose of this course is to increase the students' awareness and understanding of Anglo-American cultural values and to improve their ability to read and write academic English. There will also be a variety of activities to foster cross-cultural communication, discussion of ideas, writing and research. The focus of the course will be on the culture of the US, but there will be frequent references made to aspects of British culture as well. この講義は、アングロ・アメリカ文化を通して、学術英語の読み書き能力を向上させることを目的とする。授業では、異文化コミュニケーション、ディスカッション、ライティング、リサーチ等の能力を向上させる様々な活動を行う。必要に応じて、イギリス文化についても取り上げる。
	英米文化論Ⅱ	The purpose of this course is to increase the students' awareness and understanding of Anglo-American cultural values and to improve their ability to read and write academic English. There will also be a variety of activities to foster cross-cultural communication, discussion of ideas, writing and research. The focus of the course will be on the culture of the US, but there will be frequent references made to aspects of British culture as well. 英米文化論Ⅰに引き続き、アングロ・アメリカ文化を通して、学術英語の読み書き能力をさらに向上させることを目的とする。加えて、英語圏の文化に関する知識を深めていく。

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 科 目 歴 史 学 専 攻	文献資料研究法	日本の古代・中世・近世の歴史における基本史料の概説と、各時代の政治・文化や生活・生業に係わる古文書・記録を取りあげ、そこで語られた歴史情報を読み解きながら、研究の意義と方法を探りたい。テキストの史資料の釈文・読み下し・内容解説・時代説明などを重視し、それらの具体例に基づく学習を通して、研究テーマの発見や問題意識設定の手がかりが得られるよう留意する。また古文書の伝来や保存の歴史についても言及したい。
	近世史演習 I	戦国末期～近世前期、近世的な政治・社会の体制が形成されていく過程にかかわる史料によって、当該時期の歴史過程を学ぶとともに、史料を読解し研究課題を抽出する力量を修得する。年代的には、天正期から豊臣政権が天下を平定していく時期、江戸幕府が形成され、幕藩制が確立されていく時期、全国的な歴史の流れが地域の歴史に大きく反映する様子を、個々の史料から読み解く。
	近世史演習 II	近世中期以降、商品貨幣経済が進展していく中で、近世社会が変容し、動揺していく時期の史料や、ペリー来航以降、幕末に懸けて近世社会が崩壊していく時期の史料の読解を通して、社会の変容の様を実際の史料から読み取り、研究の視点を獲得していく。
	日本史特殊講義	主に日本中世史上の諸問題を題材として、特に近年の研究動向を踏まえ、その成果を充分取り入れることに留意しながら、一定のテーマや史料群について、より深化させた視点・視座から考察し、議論を深めさせる。そのことを通して、日本史研究についてより専門性を深めた形で探究していく能力、より発展的な史料読解の能力を涵養することを目指す。
	西洋史文献講読 I	この授業では、西欧中世・近世史の各領域に関わる基礎的な文献を講読する。この作業を通じて、当該分野における知識や研究状況を把握すると共に、資料の読み方や情報の整理の仕方、プレゼンテーションの方法などについても修得することを目指す。受講者は事前に指定された文献を読了し、授業内で行われるグループ・ディスカッションへ積極的に参加することが求められる。
	西洋史文献講読 II	この授業では、「西洋史文献講読 I」の学習内容を受けて、西欧近代・現代史へと射程を広げる。原則として、基礎文献の講読を通じて、当該分野に関する知識を深めるとともに、適宜、プレゼンテーション等のアクティブ・ラーニングを取り入れる。比較史・関係史の視点をとり入れ、多様な歴史理解について学ぶ。受講者は事前に指定された文献を読了し、授業内で行われる議論に積極的に参加することが求められる。
	西洋史演習	本演習では、イギリス史を中心に、西欧近世・近代に関する欧語文献を講読する。この作業を通じて、西洋史分野における学術論文・学術書を読解するための辞書・辞典の使い方、参考文献の活用法などの修得を目指す。また、宗教改革やフランス革命など、西洋近世・近代史の主要なテーマについて、理解を深めることを目的とする。西洋史文献講読よりも高度な内容になるため、受講者には予習・復習をしっかりと行うことが求められる。
	西洋史特殊講義	本講義では、西欧近世・近代・現代における歴史学上の主要なテーマについて、イギリスの事例を中心に論じる。我々が現在常識であると見なしている様々な制度・習慣・思想は、実際には近世以降のヨーロッパで「発明」されたものであった。本講義では、社会史分野における成果を踏まえ、近世・近代ヨーロッパの各領域について概説より一歩踏み込んで考察してみたい。

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	歴史学専攻	
	考古学専攻	
専門科目	考古学専攻	
	考古学研究法Ⅰ	縄文時代から弥生時代に関する、考古学の研究課題を提示する。また、こうした課題に迫る考古学的研究法について学修する。講義は、各種画像情報や実物資料を提示して多様な形式で実施する。
	考古学研究法Ⅱ	古墳時代から平安時代に関する、考古学の研究課題を提示する。また、こうした課題に迫る考古学的研究法について学修する。講義は、各種画像情報や実物資料を提示して多様な形式で実施する。
	考古学実習Ⅰ	遺跡発掘調査を行うために必要な技術の基礎を修得し、考古学研究の実践的な能力を身につける。調査準備から地形測量、掘削、遺物と遺構の検出、土層観察、実測、写真撮影、現地説明会などの各過程を実習し、発掘調査に必要な基礎知識を修得する。
	考古学実習Ⅱ	遺跡発掘調査を行うために必要な技術の基礎を修得し、考古学研究の実践的な能力を身につける。出土遺物の整理分類、土層断面図、遺構などの図版の整理、遺物の実測図、拓本の作成、写真撮影の方法などの技術を修得し、あわせて考古学資料の扱い方、遺物の検討などの研究方法の基礎的な技術知識を修得する。
考古学特殊講義	考古学の論文を講読し、論文執筆の方法・実際について学修する。先行研究の整理と問題の設定、問題に対する仮説の構築、関連資料の調査と収集、収集した資料の検討と仮説の検証などによる考察など、論文執筆の実際について講義する。	
保存科学演習	保存科学研究は、考古資料、美術資料、文書史料、民俗資料など多様な歴史資料を対象としたものであり、その保存と活用を目的として様々な角度から研究がされる。本演習では、テーマごとにそれらの基礎的研究から最新研究に亘る保存科学研究論文を読破し、執筆者の研究目的、研究方法、結論に至る内容について把握できる力を養う。また、課題論文の理解と併せて、関連研究について調べ発表し、発表後には受講生による討論を行う。	
保存科学実習	歴史資料の調査・研究においては、資料の観察、記録、分析、解析、検討が基礎的な作業として必要である。本実習では、実物の木製品、金属製品、石造品、土器、顔料資料などを教材として、特に、自然科学的手法を利用した材質分析、構造調査、保存処理・修復について、必要な知識と技術を修得する。また、それらが単なる「作業」に留まらないように、調査計画の立案から、データ解析、報告レポート作成までを一連の作業として実施する。	

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 科 目	歴史学専攻	保存科学特殊講義
		<p>現在、歴史研究を進める上では、保存科学の特徴である歴史的アプローチと自然科学的アプローチの融合が不可欠となる。本講義では、これまでの保存科学研究の具体的な研究成果を通じて、人とモノの交流、文化の伝播、技術の発展などの歴史を考える。また、一連の保存科学研究の流れを学ぶことで、個々の研究への応用を図ることのできる知識を修得する。</p>
	心理学専攻	知覚と認知の心理
		<p>私たちは、外界からさまざまな情報を受け取り、それを処理して理解し、行動に移している。情報を受け取るプロセスが知覚、その情報を処理して行動に移すプロセスが認知である。この講義では、注意や記憶などのいくつかのテーマを取り上げて解説し、私たちの情報処理の仕組みについて理解を深める。同時に、日常生活場面においてそれがどのような形で現れているかについても考える。</p>
	ビジネスと心理学	<p>この授業では、個人、対人関係、集団、社会現象などのテーマから得られた心理学的な知見を基に、ビジネスに心理学がどのように関わっているかを理解することを目的としている。心理学の知識がどのようにビジネスに生かされているのか、あるいは、社会人として働く上で、心理学の知識がどのように役に立つのかについて考える。</p>
学 科 共 通 専 門	プレ卒業研究演習	<p>卒業研究の作成に向けて、自らの研究テーマを発見し、確定するための活動を行う。</p> <p>【日本語日本文学専攻】卒業研究として昇華させていくための導入的専門指導を受ける。前半は、学生が自らの関心のありかを見定めるため、複数の専門分野のゼミに参加する。学生は複数の卒業研究ゼミに参加することで、それぞれのゼミでどのような研究テーマを扱うかを知り、自らの卒業研究のテーマを決めるための活動を行う。その上で後半では、所属ゼミを確定し、指導教員やゼミ生と活発な対話を行うことで、卒業研究のテーマの絞り込みを図り、卒業研究作成に向けた具体的な研究活動に入っていく。</p> <p>【英語英米文学専攻】英語学・英米文学分野の研究に対して、助言・指導を行う。研究の進捗確認のため、中間報告を実施し、問題設定、データ収集、考察について履修者全員でディスカッションし、問題点や課題を確認する。</p> <p>【心理学専攻】心理学分野の研究に対して、助言・指導を行う。研究の進捗確認のため、中間報告を定期的実施し、問題設定、データ収集・解析法、考察について履修者全員でディスカッションし、問題点や課題を確認する。</p> <p>【歴史学専攻】各専門教員の研究室に配属し、4年次の卒業研究遂行に必要な先行研究の整理、資料収集・調査などの研究方法の基礎を修得する。また、個々に探求すべき問題点の発見や研究テーマの設定につなげる。</p>

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
学 科 共 通 専 門	卒業研究	<p>【日本語日本文学専攻】プレ卒業研究演習を通じて見つけ出した自らの研究テーマを、卒業研究としてまとめていく活動を行う。具体的には、作品の精読、先行文献の収集、文献の読み込み、データ分析などを行い、さらにこれらをふまえて総合的に考察していく。適宜、指導教員の指導を受け、ゼミでの発表や討論などを経て、段階的に研究を進める必要がある。</p> <p>【英語英米文学専攻】プレ卒業研究演習を通じて設定した研究テーマについて、先行研究をまとめ、問題点を指摘し、独自の考えを提案し、最終的に論文またはポートフォリオの形式としてまとめる。各段階において指導教員の指導を受け、計画的に研究を進めることが求められる。</p> <p>【心理学専攻】プレ卒業研究演習を通じて見つけ出した自らの研究テーマを、卒業研究としてまとめる活動を行う。先行研究を整理し、問題点を明らかにして、それを検討・検証するための研究計画を立てる。調査や実験の手法を用いてデータを収集し、適切な解析法を用いて、分析を行う。指導教員の指導を受け、研究成果を論文としてまとめる。</p> <p>【歴史学専攻】プレ卒業研究演習を通じて設定した研究テーマについて、各自が史資料の収集・整理、調査・分析を進める。研究方法、研究進度などについて、指導教員の指導を受け、研究成果の集大成として卒業論文にまとめ提出する。</p>